

伝承あすか

第二十四号

海を渡った芸能

伎楽(ぎがく)

明日香村文化財課

課長 小池香津江

…百済人味摩之歸化。曰、
学ニ于呉一、得ニ伎楽舞一。

百済人味摩之、歸化けり。曰
わく、「呉に学びて、伎楽の舞を
得たり」といふ。

(百済人の味摩之が歸化し、
「呉の国で学んで、伎楽の舞を習
得した」と言った。)

『日本書紀』推古天皇二十年
(六一二)にある記事です。

古代飛鳥では、大陸との活発な
交流により多くの文物が伝来し
ました。我が国は当時の大国だっ
た中国の隋・唐王朝や朝鮮半島の
国々から多くを学び、強固な国
づくりをすすめます。多くの渡

来人がやって
来て、先進技
術を伝え、土
木、建築技術
のみならず、
思想や宗教、
芸術まで多岐
にわたる文化

が花開いたのが飛鳥時代でした。
そんな飛鳥時代に盛んだったのが、
大陸由来の芸能、伎楽です。

伎楽とは元々、古代チベットや

インドの舞楽です。西域を通じて
中国南朝に伝わり、朝鮮三国の
一つである百済を介して日本に
もたらされました。呉から伝わっ

たため、呉楽(くれがく)、くれの
うたまい)とも言います。推古天
皇は伎楽を伝えた味摩之を桜井
(現在の明日香村豊浦)に住まわ

せ、少年たちに伎楽を習わせま
す。渡来人の家系であった真野首
弟子、新漢済文が舞を伝授され
ました。川原寺、橘寺、法隆寺、

四天王寺、太秦寺などの寺院に
伎楽を上演する一団が置かれ、

仏教寺院の法会や外国からの使
節をもてなす宴で演じられました
た。朱鳥元年(六八六)には、新

羅の使者をもてなすため、川原
寺の伎楽を筑紫(福岡県)に派遣

した記事があり、奈良時代の天
平勝宝四年(七五二)、東大寺の
大仏開眼では六〇人もの大編成
で伎楽が演じられました。平安
時代以降、次第に衰退した伎楽
は現代には伝わっていませんが、
古代の伎楽面や装束の一部が正
倉院などに残されています。

伎楽はセリフのない仮面劇で、
厳かな雰囲気というよりは滑稽
なものだったようです。鎌倉時代
に成立した楽書『教訓抄』に残る
楽曲と、正倉院宝物の伎楽面と
対応させて演目の流れを追ってみ
ましょう。

○行道「治道」と呼ばれる天狗の
ような面が先導し、練り歩き
ながら入場します。

○演場に到着すると、まず「獅子」
の舞が行われます。一頭の中に
二人がはいり、獅子の胴体を
示します。

○「呉公」の舞

○「金剛」の舞。

○「迦楼羅(かるら)」、ケハラミと
もいう。霊鳥の迦楼羅が蛇を
食らい、舞い踊ります。

○「婆羅門(ばらもん)」が禪を脱
ぎ、こっそり洗うしぐさを見せ

ます。

○「崑崙(こんろん、くろん)」が
「呉女」に懸想し、男性器を誇
張したマラカタを叩いて言い寄
ります。

呉女



迦楼羅



醉胡王



○「カ士」が出てきてマラフリ舞
をし、崑崙を調伏させます。

○「大狐(たいこ)」という老人(継
子ともいう)が出てきて、仏に
礼拝します。

○「醉胡」または「醉胡王」が従者
の「醉胡従」と酔っ払ったやりと

りをします。

伎楽に用いられた楽器は横笛(高麗笛、後に龍笛)、腰太鼓、鉦盤(しようばん、シンバルのような楽器)の三種で、ほかに音声と呼ばれる声楽も伴ったようです。

すでに失われた伎楽ですが、その音楽や舞は後の雅楽や猿楽に連なり、現在でも獅子舞や各地の寺院で行われる練り供養にその名残が見いだせます。まさに、日本の伝統芸能のルーツともいえるでしょう。

伎楽に登場する役柄は国際色豊かです。伎楽が盛んだった呉にちなんだ呉公、呉女だけでなく、迦楼羅はインドの霊鳥ガルーダ、婆羅門はインドの司祭階級バラモンに由来しますが、古代日本ではインドから渡来した仏教僧すべてを指すようです。酔胡王、酔胡徒の胡とは中国から見て西方の中央アジア民族、古代においては特にソグド人のことです。飛鳥の人々は、西方の響きを奏で、舞い踊ることで、彼の地から来た人々をもてなそうとしたのでしょうか。中国や朝鮮半島で盛んだった伎楽を取り入れることで、自分たちの文化水準の高さを示

そうとしたのでしょうか。

古代の人々が愛した伎楽を、再び飛鳥の地で、実際に上演したてあるう場所で行うことができれば、古代飛鳥の情景をもっと肌で感じる事が出来るかもしれない。そんな想いから、古代伎楽を研究し、再現する伎楽復元プロジェクトをすすめています。皆さんに関心を持っていただけたら幸いです。



早川和子画
飛鳥京跡苑池の「水上舞台」で
演じられた伎楽の想像図

やくもこと

八雲琴

脇田初枝

令和二年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、四月と五月は公民館での稽古は出来ず、六月に入ってからやっと稽古を再開することが出来ました。

密を避けるために、小学生三名は和室に、中学生・高校生・大学生は研修室第一から第三までの何れかの部屋での稽古となりました。

久し振りなので、皆とても張り切って八雲琴を弾いている様子が頼もしく嬉しい限りです。

外部での演奏は、九月十九日・十月十七日・十一月二十一日の定例公演三回、十月二十九日聖徳中学校文化発表会(総合学習生発表)、十一月二十一日明日香村PRビデオ撮影とわずか五回のみでしたが、子ども達はとても嬉しそうでした。

令和二年度は小学校での指導はありませんでしたが、聖徳中学校総合学習で三年生四名、二年生三名が八雲琴についての勉強

と弾き方の習得に頑張ってくれました。
聖徳中学校を卒業となりました四名の感想文を載せさせていただきます。

明日香村伝承芸能保存会
八雲琴の先生方へ

拝啓 年末に向け、寒さの厳しい季節となりました。

今年の明日香学において、八雲琴のご指導ありがとうございました。今年度は、練習や演奏が少なく残念でしたが、童謡などを弾くことが出来、とても楽しかったです。

先生方のご指導で八雲琴の演奏も上手くなりました。この伝統を受け継いでいくとともに広めていきたいと思えます。しばらく受験勉強のため練習を中断しますが、高校に入ってから継続したいというメンバーもいます。

その際はご指導よろしくお願ひします。
まだまだ寒い日も続きますが、風邪など召されませぬようご自愛ください。

敬具

令和二年度十二月十六日
明日香学B分科会八雲琴

二・三年生一同

八雲琴

森田杏香

私は、八雲琴を小学三年生から習い始め、今年で七年目になります。習い始めたきっかけは姉が先に八雲琴をやっていて楽しそうに弾いているのを見て、私もやりたいなと思い習い始めました。



始めは、触ったことがなく、楽譜もカタカナで書かれているなど難しく、なかなか上手く弾けませんでした。でも、練習を重ねていくうちにすらすら弾けるようになり、本番でも上手く弾けるようになって嬉しかったことを覚えています。そして、中学二年生になり、明日香学でも八雲琴をしました。小学校の頃は同級生がいなくて楽しくないなと思ったときもありました。でも、明日香学で入ってきたメンバーと一生懸命練習したり、発表のときにみんなと音を合わせたりと、振り返ってみるととても楽しかったなと思います。

八雲琴は私にとってもいい経験をさせてもらいました。それは八雲琴をやり始めた頃はとても緊張していました。でも、だんだん人前で演奏することに慣れてきました。そして、自信もついて、今では人前で緊張することは少なくなりました。

高校生になったら忙しくなり、弾ける機会は減ると思いますが、続けていきたいなと思います。

八雲琴に触れてみて

井村優希

私は明日香学で初めて八雲琴を習いました。

以前に八雲琴の発表を見る機会があり、一度弾いてみたいと思っていました。初めて琴に触れた時は、絃の弾き方もツボを押さえる力加減も何も分からない状態でしたが、毎週土曜日にも練習に参加し、少しずつ弾けるようになりました。だんだん弾けるようになってきたと、お琴を弾くことが楽しくなってきました。

私は人前で何かを発表するという経験がほとんどなかったのですが、八雲琴では何回も発表の場があり、最初はとても緊張しましたが、何回も経験することで自信がついてきたと感じました。八雲琴は、歌を歌いながら弾かなければならないところが、とても難しいと感じました。中学二年生から習い始めたばかりで、弾くことに精一杯で、歌まで歌うことが出来なかったことが、少し悔しく思っています。

私が一番好きな曲は「菅搔六



段曲」です。習い始めて最初に習った曲ということもあり、愛着があるし、本手と替手があるので、とてもきれいに聞こえるので好きになりました。

二年間という短い間でしたが、丁寧な指導してくださった先生方や、優しく教えてくれた友達のおかげで琴を弾く楽しさを感じることができました。

八雲琴

車井真歩

私は、この二年間明日香学で八雲琴を学びました。八雲琴を習い始める前は舞台上で演奏しているのを見るだけでした。でも、どんな風に弾いているのかすごく気になって、二年生の時に初めて八雲琴に触れました。最初はすごく簡単に弾いてるように見えました。しかし、いざ弾いてみるとすごく難しく手が止まってばかりでした。速いテンポの曲になるとまったく追いつけず、どこを弾いているのかも分からない状況でした。ですが、そんな時に八雲琴の先生方は優しく教えてくださいました。そのおかげで私はたくさんさんの曲を弾けるようになりました。また、八雲琴を練習していくうちにみんなで心を一つにすることが大切だと分かってきました。八雲琴を弾きはじめる時や



難しい曲を弾く時などは、みんなの音がそろっていないとばらついてしまいます。心を一つにすることで聞いているお客さんに美しい音色が届けられると思いました。

高校生になると八雲琴を練習する時間は限られてしまいますが、また八雲琴を弾きたいです。

八雲琴

森岡愛純

私は、この二年間で八雲琴の素晴らしさや楽しさを知ることができました。

私がお琴を始めたのは中学二年生になってからで、始めた頃の頃はツボの場所が全く覚えられず「さくら」を弾けるようになるまですごく時間がかかりました。しかし、練習を重ねるうちにツボの場所もわかるようになり「さくら」以外にもいろいろな曲が弾けるようになりました。今では、替手も弾けるようになり、始めは難しかった琴がとても楽しいものになりました。

今年は新型コロナウイルスの影響で発表会がなくなり、あまり発表する機会がありませんでしたが、聖中祭での発表や童謡の演奏などとても良い経験ができました。先生方の優しいご指導がなければここまで頑張ることはできませんでした。高校に入ると今よりも練習に参加できる回数は減ると思いますが、これからも続けていきたいと思っています。



今まで指導していただき本当にありがとうございます。八雲琴について知り、その伝統を発表会などでたくさんの方に伝えられたことを誇りに思っています。本当に楽しく、心安らぐ素晴らしい時間でした。本当にありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。

まんようろうしゅう

万葉朗唱

万葉朗唱の会に出会って

白井三根子

大阪から、移り住んで十年、日本の始まり“明日香”を知ろうと歴史・文化 諸々の講座に顔を出したり、村内を歩いて、あちこちに万葉集の歌碑を見つけ、立ち止まって、読んだり、読めなかったりしていました。

そんな時、万葉朗唱の会に来ませんか？と、お声かけ下さり、ご縁を頂きました。

月一回(第一木曜日午後一時半〜三時)の練習の日には、みなさん快く迎えて頂き、先生はまったく初心者なのに、ていねいに指導していただき、又先輩の皆様と一緒に頑張って下さり、居心地の良い空間です。

万葉集を朗唱するだけでなく、『自分で書く わたしの万葉集』(世界文化社)や、『万葉集を書いて学ぶ、ペン字練習帳』(ブティック社)で、書き写しをしたり、最近では

『万葉集から古代を読みとく』(上野誠著 筑摩書房)で、文学から考古学としての万葉集へと学びを深めています。

万葉文化館での定例公演には万葉衣装を着て挑みます。この会に入っていなかったら、こんな経験もできなかったでしょう。

お客様の前で朗唱するときには少し緊張しますが、脳のトレーニングだと思って、頑張っております。すてきな方々とお知り合いになれたことを感謝して、これから練習にはげみたいと思います。

私の生まれ故郷大阪は昨年、百舌鳥・古市古墳群が世界遺産に登録されました。大きな古墳の周りには小さな古墳がいっぱいあり、緑豊かな土地で、大好きな所です。

しかし、もっと深い歴史のある明日香が、まだ登録されていないのが非常に残念です。

明日香村伝承芸能保存会の皆様や、明日香を世界に！の思いを持っておられる方々のご努力が、早く実ることを願っています。

万葉朗唱によせられた十五年前のお便りから

定例公演の会場は明日香宮跡(旧伝板葺の宮跡)が前景に広がる、かやぶきの「眞神壮」だった頃、見学者のお方からのお便りと写真をいただきました。

ここに御礼を申し上げます。

前略御免ください。

先日(十一月七日)は素晴らしい万葉歌の朗唱を聞かせて頂きありがとうございました。

初めての経験でしたが、私は勿論、万葉歌に興味の無かった主人までも、感動で鳥肌の立つ思いで、聞かせて頂きました。

倉敷に帰りまして、あの貴重な体験を「万葉歌を楽しむ会」の講師の先生、受講生の方々にご報告しましたところ、皆さんの羨望の的になりました。

私自身今でも信じられない様な、不思議な体験でした。本当にありがとうございます。

早々

平成十八年十月三十一日

福島ひとみ



「万葉朗唱」とは？

一度、万葉集を歌う会へお越しください

次の日程にて、県立万葉文化館にて行う定例公演の練習をしています。(会費無料)

初心者歓迎！

毎月一回 第一木曜日
午後一時半〜三時
中央公民館二階研修室③

なもて 南無天踊り

南無天踊りを世界中に!

明日香村村会議員 柳谷信子

昨年より、大好きな歌で、大好きな明日香村の伝統芸能を盛り立てるお手伝いができるかと思いい、南無天踊りに参加させていだいておられます。諸先輩方の丁寧なご指導のもと、とても楽しい時間です。五部編成の南無天踊りの第一部は、厳かな皇極天皇の雨乞いの儀式から始まり、大変見応えがあります。

第二部の歌詞は次の通りです。「岡に奥山・豊浦は池を清めて待ちくらす 雨をたんもれ云々」「真弓・平田や橘は 松明かざし岳参り 雨を云々」「世々に伝わる 巻物を 捧げて祈る細川に雨を云々」「坂田・祝戸 朝夕に竜をかたいで 川通い 雨を云々」私は、この歌詞の意味が知りたくなりました。偶然、教育文化課の小池課長の協力で様々な資料が手に入りました。

一番興味深かったのは、昭和六十二年の飛鳥民族調査会の岩井宏實氏の「雨乞い」についての話です。そこに、日本最古の雨乞いは、

推古天皇の時、この飛鳥で行われている事。六四三年の皇極天皇元年、天皇自らが南淵で跪き、四方を拜み天を仰ぎ祈ると、雷が鳴って大雨が降った事。越では神社で経を唱え護摩を焚き、その火を松明に移し、ほら貝を吹き、松明を持ち「雨タンモレ」と回った事。橘では、飛鳥川の水を汲み、檀の葉を浮かべ神社に供える事を、三十三回繰り返し、提灯を持ち仏頭山に登っていた事。豊浦では、難波池の水を変えると、必ず雨が降るといわれていた事。岡寺の竜蓋池の水を変え、池底の石を動かすると、封じ込められている竜が昇天し、雨を降らせてくれる事。阪田と祝戸は一緒に葛神社に集い、藁で大蛇を作り練り歩き、飛鳥川に放り込み、踏みつけ水浸しにし、再び祝戸から阪田へ練り歩いていた事。

ちなみに、現在の葛神社には、祝戸在住の画家・川本恵先生が描かれた、現在の「南無天踊り」

の絵馬と「白馬」の絵馬が祝戸・阪田の両大字から奉納されていてい

ます。細川では、冬野川の大石の上に雨乞いの掛図をかけ、水垢離をしていたこと。稲刈では、カリナモデという雨乞い祈願を、明治の末期まで行っていた事。その歌詞こそ、第二部の歌詞であること。

この歌詞は、飛鳥の雨乞いの方

法を物語るものだという事でした。また、これを描いた絵馬が稲刈や、東橘の神社にあり、満願成就の文字が記されています。満願御礼に踊られ、感謝の思いの踊りと歌だったのだなあと理解できました。その歌も踊りも何回でも、唱えたくなる不思議な魅力に満ち溢れています。太鼓を叩くとストレス解消、邪気を払うともいわれています。天に祈りが届き、雨を降らせて命を繋ぐ。

払い、ウイルスを退散させ、命を繋ぐ雨が降るといった、祈りの歌と踊りとしてアピールすると、飛鳥の世界遺産登録にも弾みがついて、いいのではないのでしょうか。ご当地である明日香村民の皆様も、ストレス発散、美容と健康、家内安全のために無天踊りを一緒にいかがですか？

只今団員募集中です！

明日香村伝承芸能保存会の定例公演について

明日香村伝承芸能保存会は県立万葉文化館玄関前にて、年に六回(四・五・六・九・十・十一月)定例公演を実施しています。

日程 午後一時半～二時十分

第一土曜日・蹴鞠

(高松塚公園又は石舞台公園)

第二土曜日・万葉朗唱(玄関前)

第三土曜日

八雲琴(館内ロビー)

第四土曜日

南無天踊り(玄関前)

(いずれも雨天中止)

会場提供・県立万葉文化館

あすかけまり 飛鳥蹴鞠

『分銅鞠』

飛鳥蹴鞠代表 服部光晴

飛鳥蹴鞠はこの度、鞠について、新たに入手した情報を基に事業を開始。鞠は江戸期に制作されたものを再現したものであるが、当初より、はたして中国伝来間もない頃は平安時代後半からの公家蹴鞠と同じだったか？競技方法と相まって検討課題であった。

蹴鞠の原点は中国大陸古文書、絵画など資料をよく見てみると、少し違った形状に思われた。

最近中国山東省淄博(ツボー)市臨淄(リンポー)サッカー博物館にて、古代蹴鞠対戦が行われたとの情報を得た。

同地は黄河下流域の肥沃な土地に恵まれ、早くから栄えてきた。戦国時代(BC四世紀)齊の中心地で、史記蘇秦列伝によれば、蹴鞠が行われたの記述あり、同市博物館が資料研究と復



元に努めてきた。古文書などを調査し、門(ゴール)のある競技方法を想定し、衣装・靴・鞠なども製作した。現地に連絡を取り、詳細の収集に努めた。中国通信社の新華社・共同通信の配信あり、HPでもアップされていることも知り、アクセスした。

鞠の形状は写真で確認でき、想定していた分銅鞠であることが判明。競技方法も知りたかったが、細かいやり取りはかなわなかった。

現下の情勢で、現地に出かけての交流は今しばらくできないようなので、通信手段を使つてのやりとりが、唯一の手掛かりとなりそうです。

飛鳥蹴鞠ではとりあえず、令和二年七月の蹴鞠研修会で、丸谷氏の指導で企画。型紙、原皮の供給を得て、分銅鞠を製作しました。

分銅のパーツ八枚を貼り合せて球状に仕上げるのですが、丸くするのに難航を極めました。写真のように出来上がり、その場で蹴ってみました。足にしっくりきて良い感触、メンバー一同これはいけると声を合わせました。

更に改良を加えより良い鞠に仕上げる予定です。

本会では、平成七年の答申以来、準備期間を含め、できるだけ史実に沿って復元する、ということをやってきました。文書や現地調査で、類似のものを実際に確かめるなどして、本物の飛鳥蹴鞠になるよう努めてきました。

今回の鞠については大きな前進といえます。

たまゆら(玉響)

伝承芸能あれこれ

明日香村伝承芸能保存会

会長 岡崎義男

風薫る季節、しかも、今日は極上の天気です。

新緑の葉のそよぎが、このほか美しい。日差しを乱反射して、キラキラと光る様子は、清々しい風の中で、いつまでも見飽きることはありません。

新緑の

埋め残したる

石舞台



自然は規則正しく季節の恩恵を感じさせてくれるのに、私達は新型コロナウイルス感染拡大に、神経をすり減らします。

ある歴史学者の受け売りですが、続日本紀(しょくにほんぎ)に奈良時代の天平九年(七三七)に、天然痘の大流行があって、藤原不比等の子(武智麻呂・房前・宇合・麻呂)の四人兄弟が次々に倒れ、わずか五ヶ月余りで全滅しました。働き盛りの実力者を一気に失った藤原氏は政権から転がり落ち、しばらく不遇の時代を過ごすことになりました。しかし平安時代に摂関家として、再度権力の中核に返り咲きました。その後、政権の舞台は変わりますが、第二次世界大戦末期、近衛文麿首相まで続きました。

伝承芸能保存会は、コロナ禍の中でも最新の注意を払って、月一回の練習を欠かさず行いました。

今年四月三日(土)午後一時三十分より、例年通り、奈良県立万葉文化館の玄関前広場で、明日香村伝承芸能保存会・令

和三年度定例公演の「南無天踊り」の演技を行い、その後土曜日ごとに、「万葉朗唱」、「八雲琴」を披露しました。

いずれの公演も多くの観客で賑わい、大いにやりがいがありました。

写真を撮ってくださいました方が万葉文化館に、たくさん届けていただきました。ここに掲載いたします。

ありがとうございます。



「日本の伝統(伝承)芸能の抱える課題」について卒業論文を書かれた学生さんから、話を聞く事ができました。参考になる考察がたくさんありました。一部を紹介いたします。

①どの団体も高齢化と部員数の減少に悩んでいます。

「芸能」が若い世代の関心を引く対象になっていません。また、地域の人を知っていても、広く首都圏まで、芸能自体の存在を知ってもらう必要がありません。

ホームページの開設と電話連絡だけでは時代遅れです。若い世代には、ツイッター、フェイスブック、動画、SNS音声機能アプリ等のデジタル化を取り入れた広報活動を図る必要があります。

②運営費用を確保するには芸能の観光資源化が必要です。

「見せる芸能」「体験できる芸能」に特化することです。認知度向上の効果が期待できるだけでなく、活動者のモチ

ベーション向上も期待できません。それには旅行会社、商工会、観光協会、宿泊施設やイベント会社との連携が欠かせません。

参考になるお話ありがとうございます。取り組んでみたいと思います。

「文化観光推進法」

令和二年五月一日より施行された法律です。

目的は文化の振興と観光の振興を地域の活性化につなげ、これによる経済効果が文化の振興に再投資される好循環を創出することにあります。

「伝承あすか」第二十四号
発行 令和三年五月
明日香村伝承芸能保存会
会長 岡崎義男
編集 明日香村伝承芸能保存会
題字 「伝承あすか」勝川喜昭書